

<シリーズ音声訳上の処理 第2回>

音声訳の問題点

久保 洋子

次の文を、漢字仮名交じり文に書き直してみてください。「なんじ もゆるほのおよのほり もとめかし かなたのちはやくそくされしもの ちのしずくはいのちのしずくなれば かのちにてそか けんになんじはうちゅうをささえ はるかにたかくきほうをかかげん」いかがですか？確信をもって書けたでしょうか？墨字の情報を音に変えると仮名ばかりの文になります。アクセントや、前後の文で間違いなく伝わる人が多いのですが、いつもそうとは限りません。上の文は、本を読んだ利用者からお問い合わせがあったものです。一冊の本の最後に掲げられた詩で、何度も聴いて、血か、地か、考えて結論を出してみたものの、確信が持てないというお便りをいただきました。「ち」には他にも、知、治など、広辞苑を引いてみると20数個の同音異義語があります。活字を見ていると、そんな疑問がわくことにも気がつかずに読み進んでしまいます。そんな私たちと同じように、利用者が聴いてすぐ解るように読むのが、録音図書製作の基本であるはずで、何度も聴いて判断してなお確信が持てないのでは、正しく読んだことにはなりません。

墨字を見れば解るのに、音にすると解らない、日本語の文章にはそんな事が多々あります。同音異義語がたくさんあること、一字一字に意味がある漢字を組みあわせればいくらでも造語ができること、そしてそれらの意味が字を見れば誰にでも解ること、そんな漢字の利点が、声に出して読むと解りにくいという日本語の弱点になってしまいます。そんな日本語の本を読むのですから、自分が読んでいる本のどこが声にすると解らなくなるのか、その判断が的確にできなければ録音図書の製作はできません。

普段、墨字を読み慣れている私たちがテープを聴くときに解りにくいところがあると、墨字はどうなっているのだろうと考えてしまいます。墨字を見て納得しても、それではテープの利用者には解らないままです。録音図書製作に携わる人は、何冊かの本をテープで聴いてみるのがいいと思います。校正をする時にまず聴いてみて解らないところをチェックしておくのもいいと思います。この場合も本を見て納得したので

は勿論だめです。

聴いて解るように読むというと、難しい言葉に意味を云い添える、と考える方がありますが、そうではありません。自分が知っている言葉はひとりひとり違います。常識と云っても、人によってずれがあります。自分が知っているかどうかに関係なく、辞書(広辞苑、大辞林くらいの大きさの国語辞典)にある言葉は、そのまま読めばいいのです。但し、同音異義語があって前後の文章からも判断できない時は、意味がきちんと伝わるような補足が必要です。先の利用者の方からは、「そうせいしゅ」という言葉は辞書に無いがどういう意味でしょうか、というお問い合わせもありました。辞書にない言葉は聞いて解るような補足が必要です。

前に書いたように、原本通り読むということは、原本の内容を私たちが墨字を読むのと同じように、音で伝えるということです。漢字の問題以外にも、図・表・写真などの問題、()、「」、など色々な記号の問題、等々、音声訳にはさまざまな問題があります。どう処理するかはマニュアルに書かれていますが、その前にもっと大切なのは、声にすると解らなくなるのはどこかを判断することです。自分の読みを客観的に聴いて、どこにどのような処理が必要か、この判断力を養うには、利用者の立場でテープを聴いてみるのが一番早道なのかも知れません。

つづく

上手な家庭録音のすすめ 第9回

声が波打つ？

雑音ではありませんが、非常に聞きづらいケースとして、録音している声がかんたん大きくなったり、だんだん小さくなる、あるいはだんだん小さくなっていき突然大きくなったり、逆に、だんだん大きくなって突然小さくなるといったことが繰り返されることがあります。

家庭録音では結構みかけるケースです。どうしてこんなことが起こるかということ、家庭録音の場合、マイクと口までの距離をスタジオと違い、20センチ前後に距離をとっていません。そうすると読み手の顔のわずかな変化でも指向性のマイクですから音量が変化してしまいます。原本が少し大き目の本であれば、右端の行を読むときと、左端の行を読むとき、あるいは、本の上段を読むときと、下段を読むときとで顔が動くと、音量が変化してしまいます。また、マイクを正面ではなく横から口元に向けて読んでいるケースでは、マイクから口が遠ざかると声がだんだん小さくなり、ページ

が変わると突然大きくなるといったことが繰り返されることになります。マイクを右側から向けるか、左側から向けるかで、読み手の顔の変化で、突然大きくなったり、突然小さくなったりするわけです。

顔を動かさずに読むことは聞きやすいテープをつくる上でも大変重要です。注意していないと気がつかずに顔を動かしてしまいます。スタジオで録音しているケースでも、ときどき指摘をうけることがあります。テイシーの編集者から、周期的に、突然声が小さくなるという指摘をうけ、調査したらマイクを左側から斜めから口元に向けて読んでいたケースでした。最終行になるころがボリュームが最大になり、ページをめくるとマイクから口元がはなれる度にボリュームが小さくなったわけです。家庭録音の場合、こうした録音を気付かずにしている場合が多いので注意しましょう。特に原本が大きいと顕著になりますので気をつけてください。

マイクスタンドを使うとどうしても、正面にマイクを置きにくいので読みづらくなります。その点、マイクを太いナイロンロープを使って天井から吊すなどの工夫をすれば、マイクを正面にセットできて、手元も広くなり、机の上の雑音をマイクが拾わずに済むなどの利点があります。天井にはガムテープで十分とまりますので挑戦してみてください。

つづく

お知らせ

『ろくおん通信』の更新について

グループの方へは、2002年度の『ろくおん通信』の申込用紙を同封しています。2002年度も引き続き希望されるグループは、申し込み用紙に記入の上、録音製作係宛お送り下さい。

550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2

盲人情報文化センター 録音製作係

雑誌デリシャスのグループ決まりました！

先月号で、雑誌『デリシャス』の録音をしていただけるグループを募集しましたところ、3つのグループから問い合わせがありました。今回は、和泉市のグループ「いずみ」で実験的に取り組んでいただくことになりました。ご協力ありがとうございました。

2002年度、録音図書製作講習会について

2002年度も録音図書製作講習会をおこなう予定ですが、日程などについてはまだ決まっていません。一応、2002年7月以降からスタートする予定です。次回の『ろくおん通信』では詳しく内容をお知らせいたします。

2002年度

音訳の初心者を対象にした音訳基礎講習会のご案内

毎月 第4水曜日（水曜コース）

第4金曜日（金曜コース）

期間 2002年5月～2003年3月ま

で

講師 橋本 勝利 氏

定員 各コース 15名程度

費用 5000円（※費用は途中不参加でも返却できません。）

この講習会の受講を希望される方は盲人情報文化センター録音製作係まで

利用者から製作依頼を受けている原本

『蛇神』今邑 彩著 <小説>

『雪洞鬼』菊池 秀行 著 <小説>

『歩行禅』松尾 心空 著 <仏会>

『福音と派遣 神学63号』東京神学大学神学会 <キリスト教>

『勉強なくして合格なし、関西ブロック』教員採用試験研究会 編

※この本は共同製作可能の本です。グループでの製作を募集します。

『応援します、あなたの旅立ち』大平光代著 <社会教育>

『常勝の法 人生の勝負に勝つ成功法則』大川隆法 著 <宗教>

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か5分でも結構ですから録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

デジ編集を始める (その7)

前号に続き、各ソフトウェアに注目したデジ編集のいろいろを紹介する。

(「3. デジ編集のいろいろ」のつづき)

3. 4 DI Maker

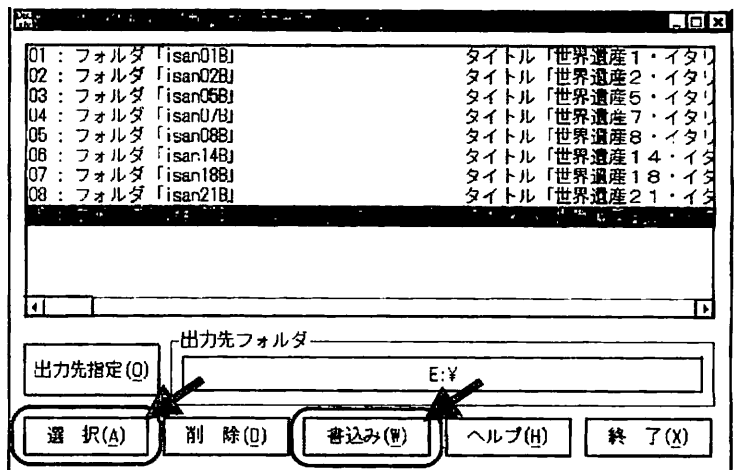
PLEXTALK でデジ図書を聞くことができるようにするためのCD情報 (Discinfo. Html ファイル) を作成するのに用いる。また、マルチタイトルCDにも対応。

通常はCD 1枚に1タイトルが基本であるが、マルチタイトルCDが有用な場合もある。合計41時間以内であれば、コーディングmp3を採用することにより、例えば上・下巻を1枚のCDに収めることができる。筆者が所属するグループでは「週刊ユネスコ世界遺産」(全100巻が発行予定、各巻は2時間以下) のデジ図書を製作中であるが、編集・発行が済んだイタリアに関する計9巻をまとめて別途にマルチタイトルCDを作成したので以下に紹介する。

(1) マルチタイトル Discinfo.html ファイルの作成

Discinfo.HTM 作成プログラムでイタリア特集の各巻(計9巻)を順番に〔選択〕→〔追加〕した後、〔書込み〕ボタンをクリックして Discinfo.HTM を作成

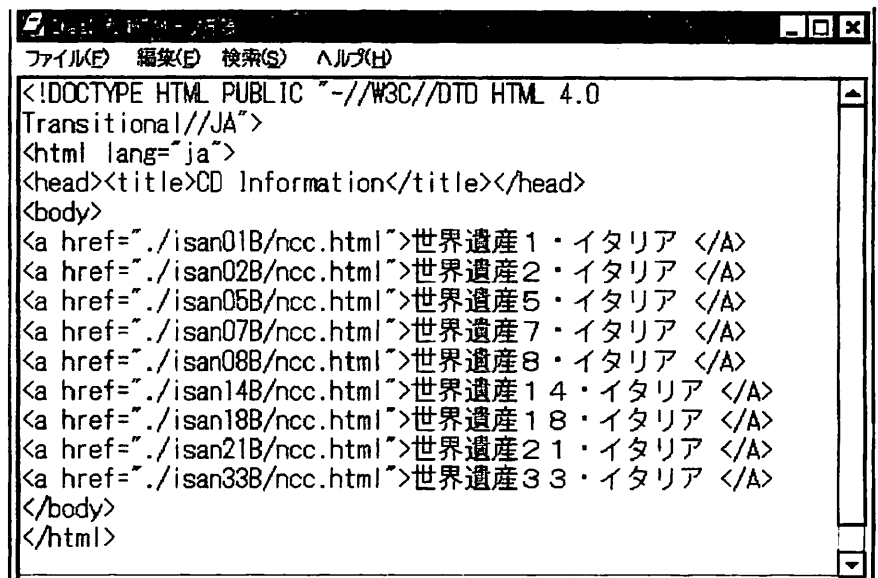
Discinfo.HTM のソース画面には呼び出す順番にタイトルが並んでいるのが分かる。今回の例では、各巻のコーディングはADPCMであるが、PCMやmp3でもよく、またはこれらが混在したものでよい。



Discinfo.HTM 作成プログラム

(2) マルチタイトル CDの焼付け

ビルドブックした各巻のプロジェクトホルダー (例: isan01B、02B、05B、...) と上記の Discinfo.html ファイルを一緒に焼き付ける



Discinfo.HTM のソース画面

(3) マルチタイトルCDの再生 (PLEXTALKの場合)

①PLEXTALKにマルチタイトルCDを装着すると「タイトル合計〇〇」(例:「タイトル合計9」)とアナウンスがあった後、第1タイトルが読み上げられる。

注:タイトル合計がアナウンスされないときは、アナウンスされるまで〔↑〕キーを押すこと。タイトル合計がアナウンスされるのはレベル1よりさらに一つ上のレベル(レベル0?)である。

②タイトル合計のアナウンスを聞いた後、所望のタイトルがアナウンスされるまで〔→〕または〔←〕キーを押す

③所望のタイトルに到達したら、〔↓〕キーを押す。すると、「レベル1」とアナウンスされるので、あとは通常の操作で再生すればよい。

注:聞き終わって別のタイトルへ移るときは、再度タイトル合計がアナウンスされるまで〔↑〕キーを押して②の操作に戻る。

(4) マルチタイトルCDの再生 (Lp Player の場合)

デジータ図書はパソコン上でLp Player を用いて再生することができる。

Lp Player を立ち上げ、

〔Daisy2.0 録音図書を開く〕画面で、①CDドライブを選択する。収容されているタイトルの一覧が表示されるので、②所望のタイトルのアイコン(例: isan01B)をダブルクリック。

指定したタイトルがアナウンスされたら、③〔開く〕ボタンをクリック。

Lp Player 画面が現れたら

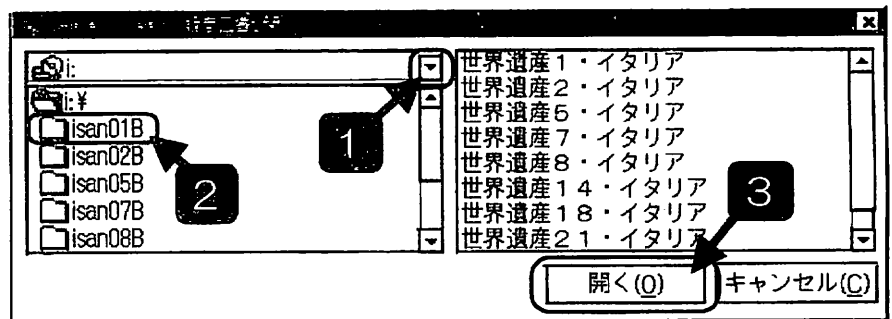
④左欄の所望の見出し

(例: 原本奥付) をクリックした後、

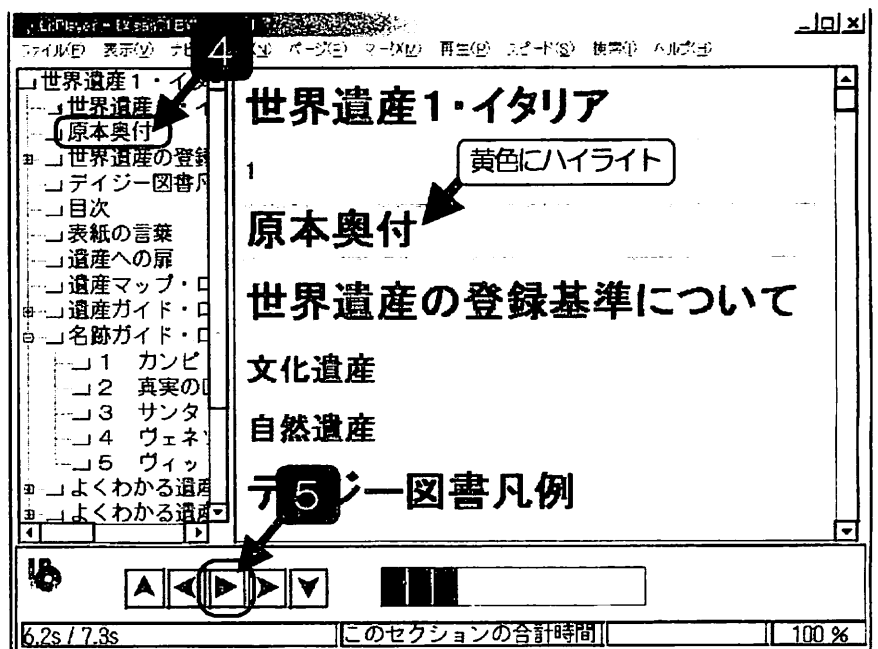
⑤再生ボタンをクリックすると、

右欄の見出しが黄色にハイライトされ、

そこから再生が始まる(音声が始まる)。



〔Daisy2.0 録音図書を開く〕画面



Lp Player 画面